北海道大学

HUSCAPの育て方

○○先生

図書館　杉田です。お世話になります。

＞＞(1)JCO論文
＞＞HUSCAPへの搭載について、American Society of Clinical Oncologyへ照会し、

これについて、先方から残念な連絡がありました。
JCO誌への発表文献は、たとえ原稿ファイルであっても著者サイドで保存・公開してはならないとのことです。

※以下で「Kunie」は海外出版社との連絡を担当している図書館の者です。

＞＞Dear Kunie,
＞＞
＞＞ASCO does not allow JCO articles (even in manuscript form) to be
:
＞＞Kind Regards,
＞＞○○○ ○○○○
＞＞Senior Permissions Program Assistant

HUSCAPは、

・無料オンライン公開（open access）することで、先生方の文献の可視性（visibility）を高めること（＝電子ジャーナルの購読ライセンスを持たない産業界や開発途上国等の研究者にも文献本文を届けること）

・文献本体を図書館資料として大切に保存していくこと

を２本柱として活動をすすめておりますが、ジャーナル刊行元（＝著作権者）の許諾が前提ですので、図書館としましては非常に残念ですが、今回の、

XXXXXX X, XXXXXXX X, XXXXX X, XXXXXXX X, XXXXXXXX X, XXXXXXXX X.
XXXXXXXXX XXXXXXXXXXXX XXXXXXXX XX XXX-XXXX XXXXXXXX-XXXXX XXXXXXXXXXXX
XXX XXXXXXXXXXXX XXXX XXXX XXXXXX. X XXXX XXXXX. 99:999-999, 9999

については、現段階ではHUSCAPでの公開は断念せざるをえないように思います。

文献送付のお手間をとっていただいたところたいへん恐縮なのですが、以上ご報告いたします。

○○先生、

図書館でHUSCAPを担当しております、杉田と申します。お世話になります。

説明不足の点がありました。以下３点お知らせいたします。

（1）利用回数を見ることができるのは文献の初回登録時以降です。
（2）利用回数は毎月電子メールでお伝えします。
（3）紀要バックナンバーは、現在のところ、上記の対象外です。

（1）利用回数を見ることができるのは文献の初回登録時以降です。
お送りいただいた最初の文献を、（出版社の許諾を得た上で）HUSCAPに収載する際に、パスワード設定のためのご案内メールを差し上げています。
それ以降、ＩＤ（仰る通り、メールアドレスです）と、ここで設定したパスワードでHUSCAPのシステムに接続可能となります。

（2）利用回数は毎月電子メールでお伝えします。
６月から、ＩＤ・パスワードを用いてHUSCAPのシステムに接続せずとも、毎月初、利用回数を電子メールでお知らせすることにしています。もしも、この月１回の通知でよろしければ、上記（１）は無視して、パスワード設定を省略して頂いてかまいません。

（3）紀要バックナンバーは、現在のところ、上記の対象外です。
紀要のバックナンバー（各編集委員会との合意の下に一括してHUSCAPから公開している分）に収録されている文献については、たとえご自身の論文であっても、現状、利用回数を見ることができません。申し訳ありません。
（ぜひ、見られるようにしたいと考えているのですが、着手できておりません）
なお、別の方法でお調べすることはできます。ちなみに、『教育学研究科紀要』掲載の「○○○」の通算利用回数は以下の通りです。

利用した人のドメイン　閲覧回数
ne.jp53
com42
不明19
net12
co.jp7
sendai-ct.ac.jp6
sgu.ac.jp3
or.jp3
go.jp2
uk2
hyogo.jp2
osaka.jp2
tottori.jp2
hokudai.ac.jp1
yamagata-u.ac.jp1
saga-u.ac.jp1
hokkaido.jp1

以上です。
発展途上のシステムで不備な点が多々あります。改善点のご要望など、ぜひお寄せいただければと思います。

では引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

○○先生、

附属図書館　杉田です。

たいへん申し訳ありません、私どもの説明文に不備がありました。

電子情報通信学会ですが、IEICE Transactionsについては昨年から、

1．附属図書館から○○先生に「著作物利用承諾願」をお送りし、印を頂く。
2．附属図書館から電子情報通信学会へ、上記と共に、「著作権利用承諾申請書」を送付する。
3．電子情報通信学会から許諾が下りる。

という段取りになっていました。
その上で、電子情報通信学会の許諾条件は、

・HUSCAPでの公開は出版後６ヶ月以降でなければならない。
・著者原稿でなく出版されたバージョンのみOK
（IEICEが公開している電子ジャーナルの本文ファイル、または、抜刷や誌面をスキャンしたもの）

というものですので、

4．もしも先生のほうで、電子版IEICE TransactionのPDFを入手可能でしたら、お手数ですがお送りください。もし不可能でしたら私どもの手で、情報科学研究科図書室にある冊子をスキャンします。

5．HUSCAPへの搭載作業を行う。

というふうに進みます。

該当の文献は、↓でしょうか。

XXXXXX X, XXXXXXX X, XXXXX X, XXXXXXX X, XXXXXXXX X, .
XXXXXXXXX XXXXXXXXXXXX XXXXXXXX XX XXX-XXXX XXXXXXXXXXXX
XXX XXXXXXXX XXXXXX. X XXXX XXXXX. 99:999-999, 9999

「著作物利用承諾願」を添付しますので、以上ご検討の上、もしよろしければプリントアウトし、捺印して、

学内便番号１
附属図書館HUSCAP担当

宛にお送りください。
＃ただ、「６ヵ月後」との条件のためHUSCAPに収録できるのは９月に
＃なります。

長くなってしまいすみません。どうぞよろしくお願いいたします。

＞＞むこうの大学と調整しなければいけない理由（例えばどんな理由があるのか）
＞＞と、もともとこのシステムを始めた目的だけ知りたいのですが。

基本的に、論文は、所属していた大学でなく先生のものでありますので、向こうの「大学と」調整する必要はないものと思われます。
（ただ、構成員の著作はすべて大学の所有物とする、というような強硬な方針をとっている大学がもしあるとすれば別ですが、少なくとも例えば北大では論文は先生のものです）

三浦から、

＞ただ、共著者の方々との間で何らかの問題が生じる恐れがありましたら、
＞恐れ入りますがあらかじめ調整の上ご回答を頂きたくお願い申し上げます。

と申し上げましたのは、共著の方々やボス（last author?）から、後で「俺たちに無断でそこで公開しやがって」というようなクレームがつくといけませんので、もしそういう恐れがありましたらひとことことわっておいて頂きたい、という意味です。
共著だけど実はあんまり仲がよくなくて…という例をまれに聞いたことがありまして、野暮ながら念のためこうしたご案内をしています。

それから、もともとこのシステムをはじめた目的ですが、

学術雑誌価格の高騰により、重要な雑誌でも機関購読をキャンセルせざるをえない大学が増えてきている。
（北大は雑誌購読に５億かけています。そういう経費を捻出できない大学は、購読を中止せざるを得ず、例えば国内で読める外国雑誌は90年代の10年間のうちに半減（4万種→2万種）してしまいました）
↓
出版社の版権上の問題とならない範囲において、大学のホームページで著作論文を無料オンライン公開すれば、雑誌を買えない研究者の方々にとって朗報となるのではないか。
で、それは、自身の研究への認知度を向上するという意味で、公開する側にも多大なメリットがある。
（物理学分野では、無料オンライン公開された論文はそうでない論文の5.6倍引用される、という調査結果があります）

というもので、まとめると、認知度向上のプラットフォームとして、北大の先生方の文献公開のためのツールとなりたい、というのがHUSCAPの目的です。

以上、長々とすみません。ご検討よろしくお願いいたします。

附属図書館でHUSCAPのデータ管理をしております杉田と申します。
このたびは文献のご提供ありがとうございます。

＞＞HUSCAP上で提供した自分の論文を拝見しました。
＞＞私の最終原稿ファイルでは行番号が入っていますが、HP上で公開する際にはこれ
＞＞は不要ではないかと思いました。どのようにお考えですか？

申し訳ありません。行番号を消去し、搭載しなおします。

HUSCAPでは、図書館事務職員による恣意的な編集行為となってしまわないよう、また、万一の間違いを防ぐ意味からも、これまで先生方からご提供いただいた原稿ファイルを原則としてそのままの状態で連結・PDF化する形で収録をすすめてきました。ご不快おわびいたします。

附属図書館の情報システム課の杉田と申します。
先週、紀伊国屋書店でのサイエンスカフェに同僚とお邪魔し、たいへん感銘を受けた者です。
ロケットを小さく作るのが難しいとはまったく想像の外でした。それから後半の、産業づくりのくだりも、困難を楽しむようなご姿勢に非常に元気付けられる思いがしました。

いま図書館で、北大の先生方のご著作文献をお預かりし、インターネット公開する「ハスカップ」という発信データベースをつくりつつあります。こちらも、北海道に根ざした名称を冠し、先生方のお仕事を市民の方々に（それから他大学の研究者の方々に）お届けするべく、私どもも艱難辛苦を快感としてがんばっております。

HUSCAP（ハスカップ）
http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/index.en.jsp

紀伊国屋書店に来場できなかった方々のため、もしよろしければ先生の「北海道のCAMUIロケット」のスライドを、この、HUSCAPに搭載させていただけないでしょうか。ご検討よろしくお願いいたします。
（ご同意頂ける場合は、パワーポイントのファイルを添付し、返信下さるだけで結構です）

お忙しいところ恐縮ですが、以上、どうぞよろしくお願いいたします。

創成科学研究機構　○○先生、

附属図書館で阿倍とともにHUSCAPを担当しております、杉田と申します。
本件、お返事が遅くなってしまいまして申し訳ありません。

＞＞　著者自身が作成した投稿原稿ファイルが何故必要なのか、理由が

図書館では、先生方のご著作の認知度向上のプラットフォームとして、文献公開のためのツールとなりたい、という目的でHUSCAPを設置しています。

で、今回の Colloids and Surfaces の刊行元（エルゼビア社）は、『a revised personal version（査読完了時点の最終原稿ファイル）を自身（の所属機関のウェブサイト）で公開する』権利を各論文執筆者に認めています。

http://www.elsevier.com/wps/find/authorsview.authors/copyright#whatrights
＞＞（An author retains）the right to post a revised personal version
＞＞of the text of the final journal article (to reflect changes made
＞＞in the peer review process) on the author's personal or institutional
＞＞web site or server, incorporating the complete citation and with a
＞＞link to the Digital Object Identifier (DOI) of the article;

私どももできれば、出版された、最終的な形の論文を収載したく思うのですが、版権上、上のような事情ですので、Colloids and Surfaces誌については今回のようなご案内をしております。

以上、事情をご報告いたします。
最終原稿をHUSCAPで公開するかどうかは、先生のご判断ですので、上記ご勘案の上、検討ください。よしとなればメール添付でお送り願えれば図書館としては幸いです。よろしくお願いいたします。

JJAP発表論文をHUSCAPに送付くださったことのある先生方へ(BCC)

＞＞JJAP（応用物理学会刊）とHUSCAPとの関係についてご意見を頂戴したく、
＞＞メールさせていただきました。ご多用中恐縮ですが、よろしければお考
＞＞えなどお聞かせ願えれば幸いです。

いくつかご返信をいただきました。お忙しい中、たいへんありがとうございました。ご回答くださった先生の所属、お立場等が明らかにならない方向で抜粋・編集し、本メール末尾にまとめさせていただきます。

学会部外者である事務職員からの今回のようなメールには御不快もあったかと思います。どうかご容赦いただければと思います。しかし、私どもにとってたいへん心強く、有難く、元気の出るメッセージをたくさん頂き、また引き続きがんばっていこうと思いました。
（「著者ご本人から申請書」書式、取り寄せてみます）

HUSCAP的システムを持っている他大学の担当者とも協調し、できるだけいい方向にいくよう引き続き努力していきたいと思います。

ただ、学会の舵はやはり学会の主人公である先生方の手にあります。
実際、JJAPの現方針は、学会員である先生方の総意が現段階での一定の折り合いの形としてあらわれたものと見るのが妥当なのだろうと思います。
応用物理学会の活動の中で、なんらかのディスカッションの機会に、こうした「研究論文へのオープンアクセス」というような話題が出ることはあるものでしょうか。本部といわず、北海道支部の集まりででも、もしそういう話題が取り上げられる機会があれば、ぜひ議論を深めていただければと思います。
＃もしそういう機会があり、外部者が陪席させていただけるものであれ
＃ばぜひ拝聴したいです。

＞ご担当者様
＞＞
＞＞了解いたします。

ご連絡ありがとうございます。

＞＞論文の共著者の方の了解はどのようになっているでしょうか？ そちらが心配です。
＞＞できれば共著者の方全員の許可をとっていただきたく思いますが、このあたりHUSCUP
＞＞ではどのように取り扱っておられるのでしょうか？

現状、HUSCAPでは、共著者の方々との間で何らかの問題が生じる恐れがあるケースでは、先生のほうのご判断で、
(1)HUSCAPへの収録を承諾しない。
(2)あらかじめ共著者と調整の上、HUSCAPへの収録を承諾する。
のいずれかの対処をとって頂いております。

（これについては誠に申し訳なく思っております。
本来であればこちらで共著者の方々全員の連絡先を調査し、コンタクトさせていただくべきところなのですが、北大の先生が産出する論文数に比し、私どものスタッフ数が今のところ十分とは言えず、残念ながら全著者コンタクトの実施が困難、というのが現状です。）

上のような事情ですので、今回の「○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○」については、○○先生ご自身のご了解がいただけたところたいへん図書館としましても残念ですが、もしも共著者の方の意向について懸念があるようでしたら、HUSCAPへの掲載については断念せざるをえないのではないかと受け取りました。

せっかくの了解のお返事に対してたいへん恐縮ですが、以上が現状です。

図書館　杉田です。原稿ファイル、たいへんありがとうございます！

HUSCAP公開OKのElsevierですので、すぐに掲載作業に入ります。

なお、通常、HUSCAPでは原稿ファイルに私ども事務職員が手を入れることはしていないのですが、今回ご提供いただいた文献については、

原稿ファイルの標題：X XXXXX XXXXXXXX XXXXXXXX XXXXXXX XXXXXXXXX XX XXXXXX XXXX XXXXXXXXX
CBP掲載時の標題：　X XXXXX XXXXXXXX XXXXXXXX XXXXXXX XXXXXXXXX XX XXXXXX (XXXXXXX XXXXXXX) XXXXXXXXX

と、標題に校正が入っているようにお見受けします。見る人の混乱を避けるため、HUSCAP掲載時にも、原稿ファイル最上部の標題部分を、

XXXXXX XXXX　→　XXXXXX (XXXXXXX XXXXXXX)

のように、publishされた標題に合わせたいと思います。
すみませんが今回この点ご了承いただけますようお願いします。

＞以前に、私の論文でAmerican Institute of Physics発行の雑誌
＞Journal of Mathematical Physicsに掲載されたものにつきまして、
＞HUSCAPに載せていただいてよい旨のメールを出したと記憶しておりますが、
＞まだ、HUSCAPに載っていないようですので、この点について
＞状況をお知らせいただけますと

はい。お返事頂いたうちで、

XXXXXX X, XXXXXXX X, XXXXX X, XXXXXXX X, XXXXXXXX X, XXXXXXXX X.
XXXXXXXXX XXXXXXXXXXXX XXXXXXXX XX XXX-XXXX XXXXXXXX-XXXXX XXXXXXXXXXXX
XXX XXXXXXXXXXXX XXXX XXXX XXXXXX. X XXXX XXXXX. 99:999-999, 9999

につきましては、この3月にAIPのWebサイトからPDFを入手し、HUSCAPに登録しました。

他の文献（80〜90年代のもの）については、実はAIPのWebサイトにPDFが公開されておらす、別のEBSCO社というサイトに当該文献のPDFが公開されていました。そこでEBSCO社及びAIPとの間で交渉しましたところ、
・それらはAIPに権利がある。
・その上で、権利者として、EBSCO上のPDFの、HUSCAPへの搭載を許可する。
という連絡をAIPから先日もらうことができました。

AIPのジャーナル掲載論文でEBSCO社のサイトにPDFがあるケースは、他の先生がたのものも含めて実は非常に多く、作業体制を考えつつ着手しようかと思っていたところでありますので、これを機に○○先生のものを手始めに搭載作業をすすめたいと思います。

○○さま、

三浦とともにHUSCAPに携わっております、図書館の杉田と申します。

＞＞三浦様
＞＞
＞＞1）学位名称は「教育学修士」でお間違えないでしょうか。
＞＞間違いないです。

了解です。ありがとうございます。

＞＞2）修士学位の授与年月日
＞＞学位授与式は2007年3月23日になります。
＞＞※よくわからないのですが、授与年月日は授与式を指すのでしょうか。
＞＞それとも３月末日になるのか、その判断はこちらではよくわかりません。

学部卒業のときに、卒業証書をもらっていますよね。
その卒業証書に、発行日付が書いてあったかと思います。

今度も学位授与式か何かの機会に、修士の卒業証書（学位記）がもらえますが、今回お聞きしたいのは、その修士の卒業証書（学位記）の発行日付です。実際に手にしたときで結構ですので、お手数ですがご一報頂ければと思います。

＞＞また、このメールアドレスは在学中のみ有効ですので、
＞＞何日からかはっきりはわかりませんが、使用できなくなります。
＞＞他の連絡先をお教えしたほうがよろしいでしょうか。

HUSCAPでは、掲載している文献が何回見られたかを、月１回、著者の方々に電子メールでお知らせするようにしています。

というわけで、メールアドレスが変わったら、ご連絡は必ずしも必要ではありませんが、もし新アドレスをお知らせ頂ければ、上記の「回数通知」のメールをお届けします。

文学研究科　○○先生、

図書館　杉田です。
新年おめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

たくさんの発表資料をありがとうございます。

＞＞5．「○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○」
＞＞7．「○○○○○○○○○○○」
＞＞につきましては改めて後ほどメールでご連絡いたします。

これについてご相談させてください。

途中、○○○○○○○○○○の歌詞を示したスライドがあります。
前後の流れを拝見し、ここでこの歌が挙げられていることに、なるほどと思いました。

日本音楽著作権協会の規程を確認したところ、HUSCAP（営利を目的としない教育機関）で歌の歌詞をインターネット上に掲載する（公衆送信、送信可能化）する場合、著作権使用料が課されるようです。10曲ごとに年額20000円だそうです。

しかし、残念なことに、HUSCAPには今のところこれを支払う用意がありません。すみませんが、

(1)この両資料についてはHUSCAP掲載を断念する、

か、あるいは、もしも決定的に内容に影響があるわけではないと言えそうであれば、

(2)該当のスライド1枚を取り去って、あらためてPDF化してお送り頂く。

のいずれかをご検討を頂けないでしょうか。
私たちとしましては、せっかくのご講演記録でありますので、ぜひHUSCAPに掲載したいです。先生にはお手数となりますが、(2)で願えればたいへんありがたく思います。

以上です。
普段は文献の内容に立ち入って先生方にご相談することはしていないのですが、通常日本音楽著作権協会は、その、かなり厳格なところですので、恐縮ながら以上ご検討よろしくお願いいたします。

磯本とともにHUSCAPを担当しております杉田と申します。お世話になります。
Zoological Scienceの原稿ファイルありがとうございました。

仰せの通り、採択決定原稿をお送り頂き、一般公開していく活動です。
ただ、これについて過分に先生方の手をわずらわせるのは図書館としても本意ではありませんので、基本的には次のようなスタンスで考えております。

・これから執筆・発表される論文について、雑誌に掲載された段階で、採択決定段階の原稿ファイルご寄贈いただけるとありがたく思います。

・過去の文献を網羅的に洗い出し、探し出し、お送りいただくことまでは、あえてはお願いしておりません。
（ただ、先生のほうでそうしていただけるのであれば大歓迎です）

＞＞とだと思っております。また、そうでしたら、何年ごろからの論文原稿をお送
＞＞りました。私がsenior authorの論文原稿はたいていのものは持っておりますの
＞＞で、随時お送りできます。

前記のような事情ですので、ともあれ先生のほうで無理ない範囲でお考えいただければと思いますが、もしご協力頂けるのであれば、過去2年分程度を目安に、Zoological Scienceでのご発表文献と、それから、Elsevier社（HUSCAPでの原稿公開OK）の、

XXXXXX X, XXXXXXX X, XXXXX X, XXXXXXX X, XXXXXXXX X, XXXXXXXX X.
XXXXXXXXX XXXXXXXXXXXX XXXXXXXX XX XXX-XXXX XXXXXXXX-XXXXX
XXX XXXXXXXXXXXX XXXX XXXX XXXXXX. X XXXX XXXXX. 99:999-999, 9999

などもご寄贈いただけるとたいへんありがたく思います。

なおちなみにHUSCAP最古の論文は1926年の松村松年先生の紀要論文です。
http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/9103

引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

○○先生

お世話になっております。
附属図書館、HUSCAP担当の紙谷です。

＞＞＞　XXXXXX X, XXXXXXX X, XXXXX X, XXXXXXX X, XXXXXXXX X, XXXXXXXX X.
＞＞＞　XXXXXXXXX XXXXXXXXXXXX XXXXXXXX XX XXX-XXXX XXXXXXXX-XXXXX
＞＞＞　XXX XXXXXXXXXXXX XXXX XXXX XXXXXX. X XXXX XXXXX. 99:999-999, 9999

の図をお送りくださいまして、誠にありがとうございました。

＞＞＞＞これを投稿論文に組み入れて下さい。

はい、本文最終ページに続けて図表を追加する形で、単一のPDFファイルにまとめます。
学術雑誌のように美しくレイアウト編集ができるとよいのですが、組版のための十分な技術と道具がないことと、万一の内容的な破損を避けるため、HUSCAPでの編集作業は上記に留めております。
何とぞご理解いただけますよう、よろしくお願いいたします。

＞＞＞＞　なお，つい勢いがついて，他の論文のPDFファイルを探しています。

ありがとうございます。
ぜひ、HUSCAPへお寄せください。お待ちしております。

なお、お手元に原稿ファイルがあるものについては、なるべくそちらをお送りいただければと思います。出版社にもよりますが、出版社が作成したファイルよりも、ご自身の手による原稿ファイルの方が、HUSCAPへの登録が認められる可能性が高いです。

本日お送りいただいた論文につきましても、現在、出版社の版権状況を確認中ですが、もしかすると、原稿ファイルをお願いするケースがあるかもしれません。
何度もお手数をおかけし、大変恐縮ですが、その際は、可能な範囲でまたご協力いただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。
以上、重ね重ね恐縮ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

それから、以下、報告です。

（2）電子通信学会・電子情報通信学会の技術研究報告（下記10.17.23.25.）ですが、同学会へ「著作権利用許諾申請」を送りましたところ、論文本体の公開は不可との連絡がありました。
電子情報通信学会は、論文誌（IEICE Transaction）掲載文献のHUSCAP公開はOKとしているのですが、この技術研究報告シリーズは別方針であるようです。
お手間をとっていただいたところ、私どもの認識不足があり、たいへん申し訳ありません。

○○科　○○○先生、

附属図書館HUSCAP担当の杉田と申します。
お世話になっております。

たいへん間の空いたメールをお送りすることをお許しください。
2月のことですが、標記の件、私どもも（自らの業務ながら）即座に状況がつかめず、お返事できずじまいになってしまっておりました。

＞＞どのような経緯で下記の表題にたどりついたのかわかりかねますが、下記内容の
＞＞論文は現在執筆中のものでございます。
＞＞ですので、最終原稿を…と言いましても、まだできておりませんのでお送りする
＞＞ことができないのですが…。
＞＞何かの間違いでしょうか？
＞＞お役にたてずすいません。

完全に私どもの間違いでした（下記参照）。
混乱を招き、誠に申し訳ありませんでした。ご連絡が遅くなってしまいましたことと併せ、あらためましてお詫び申し上げます。

今後もしご論文を発表された折は、ぜひHUSCAPへの寄贈についてご一考いただければ幸いです。
引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

（参考までに、私どもの間違いの経緯）

HUSCAPでは、文献データベース「ウェブオブサイエンス」で先生方の直近のご著作を把握し、本件のように、電子メールにて寄贈のお願いをお送りしております。

2月頃、Nature Publishingの、Journal of investigative Dermatologyの○巻○号に、2007 ESDR のアブストラクト集が掲載され、その中に、○○先生の口頭発表でしょうか、

XXXXXX X, XXXXXXX X, XXXXX X, XXXXXXX X, XXXXXXXX X, XXXXXXXX X.
XXXXXXXXX XXXXXXXXXXXX XXXXXXXX XX XXX-XXXXXX XXXXXXXX
http://www.nature.com/jid/journal/XXXX/XXX/index.html

の記事がありました。この記事（会議抄録）が「ウェブオブサイエンス」に収録されたのですが、このとき、私どもの作業員が、

Journal of investigative Dermatologyに、○○先生の上記標題の原著論文が掲載された、

と誤認してしまったもののようです。
図書館司書としてお恥ずかしい限りです。不注意お詫びいたします。